

# 美瑛

美瑛町立美瑛中学校  
学校だより  
令和5年11月号

## 「つながる思い」

校長 金山 達也

去る10月12日6校時。3年生を対象として、毎年恒例の防災学習が行われました。通常行う年2回の避難訓練以外の防災学習として、避難後の自分の行動や避難所での活動に焦点をあてた学習です。授業では、避難所で使用する段ボールベッドの組立作業をグループに分かれて実施していました。この取組の発端になったのが、昨年もご紹介した通り、今年で7年目を迎えるCS(コミュニティスクール事業)の活動となります。さらに、今年は11月15日に、1年生を対象として、右記のとおり、避難所運営ゲーム「HUG」を体験しました。7年前、この運営ゲームを実際に体験されたCSの委員の一人が会議の中で「避難訓練を地域と学校をつなげる活動にできないだろうか」と発言されたことが全てのスタートになっています。計画当初は、地域の福祉施設や保育所等と連携し、実際に美瑛中学校を避難所として、避難してきた高齢の方や幼児を中学生が誘導したり、避難所に運ばれてきた救援物資を中学生がリレーで運んだりするといったことも計画されていました。その計画途中でコロナ禍となり、計画はほぼ白紙になりましたが、中学生が実際に避難所でできることを防災学習の目的の一つとすることで、上記のような活動が始まりました。

今年度の重点目標の一つである『接続(CONNECT)』には、過去から現在そして未来への接続(つながり)という意味と『絆(BOND)』つながりの強化という2つの思いを込めています。単なるCS活動の一環だから・・・ではなく、地域と学校がどうつながり、ともに発展していけるかが重要であり、さらにその活動が単年度のものではなく、いかに今後も継続させていけるか・・・が問われています。

この4年ほどのコロナ禍で活動が制限されてきたCS活動ですが、学校前通りのコキアの植樹には地域の方の参加も増えてきています。これまで続けてきた学校行事への協力はもちろんのこと、昨年度から始まった卒業生への手作り胸花のプレゼント事業など、少しずつ、そして確実に活動の幅が広がってきています。

CS(コミュニティスクール):学校と家庭・地域のつながりをより一層深め、地域住民が学校運営に積極的に参画する仕組みを構築しながら、双方の信頼関係を築くとともに、学校の教育活動の一層の充実を図ることを目指す。



## 防災学習教室

11月15日(水)1年生を対象とした防災学習教室が行われました。今年は始めに北海道教育大学旭川校の先生、国土交通省旭川河川事務所の担当者の講義を聞き、そのあと災害時の避難所の設置をシミュレーションしながら学ぶ「避難所運営ゲーム(HUG)」を体験しました。避難所にやってくる様々な人数・立場・事情をもった人・家族・グループを、避難所となった美瑛中学校体育館や教室にどのように振り分けていくか、友達と相談しながら考えていくものでした。ペット連れ、高齢者、外国人などいろいろなシチュエーションについて、真剣に話し合う姿が見られました。



## アスペルジュで食体験

10月17日、19日、3年生が食体験として、美瑛選果のアスペルジュヘランチを食べに行きました。普段からおいしい給食を食べている生徒ですが、「美瑛の食材を味わえてあらためて美瑛の魅力を知ることができた。」(生徒の感想)等、美瑛の豊かな環境と、食事のマナーについても学ぶことができた体験でした。



## 保健体育「柔道」

現在、保健体育の学習では「柔道」の学習を行っています。受け身や投げ技、固め技など基本動作や基本となる技を覚えつつ、武道には技能の習得を通して、自他共栄など人間形成を図るという伝統的な考え方があることについても学んでいます。

怪我の無いよう、安全に十分気を配りながら、指導を行っています。



## 後期生徒会役員紹介

生徒会 会長 長野 天音(2年1組)  
副会長 絹川 瑞樹(2年2組)  
書記 岩渕 乃愛(2年1組)  
会計 土居 晴楽(2年2組)

遅くなりましたが、後期の生徒会本部役員のご紹介をいたします。

伊藤 由衣(2年1組)  
植村 心奏(1年1組)

皆さんの活躍を期待しています。